



子育ては楽しいとメッセージ

地域に子育て支援の輪を

本紙では、1年間にわたり「少子化」を取り上げてきた。最終回は、子育て中の人、地域で子育て支援をする人たちに現場の声を聞いた。そこでは、単に出生率にこだわるのではなく、若い世代に「子育ては楽しい」というメッセージをおくり、かつ彼らがそう実感できる子育て環境を地域に整える必要があるとされた。平成19年度の足立区予算案は、子育て支援が強化されている。

「私自身が3姉妹なので、3人は産みだかっただけです。2人目までは育児が大変でしたが、3人目は楽」。のびのび親子ひろば(※別掲)『サロン・ド・ポニータ』に参加するこの母親には、4・3・1歳児がいる。子連れでは外食がままならない。月1回、ここで食べるデザート付きのおいしいランチを楽しみにしている。食事中は、ほかのママたちとおしゃべりをし、先輩のスタッフから煮物や伝統食の作り方を、育児について教わる等、リラックスした幸福のひとつときだ。

07年度足立区予算案

子育て支援を強化 経済援助と環境整備へ

この日、参加した専業主婦の母親たちは少子化について、「行政が経済的な援助を厚くしてくれると助かる」「母親もちょっと息抜きができる、親子で過ごせる場所が近くにいっぱいあると心強い」「パパの帰りがもう少し早ければ」。彼女たちは、経済的な援助と育児の孤立を防ぐ地域の子育て支援を欲している。また、夫の労働荷重も子育てに影響を及ぼすと。一方、同サロンで活動するスタッフは40・70代までの6人。うち4人は、足立区社会福祉協議会あいあいサービスセンターのファミリーサポート(※仕事と育児の両立を図るための子ども預かり制度)の提供会員として、自宅で子どもを預かっている。いわば日々、働く親たちの子育てに直面している人だ。少子化について聞いてみた。一子どもは宝。母親たちへ「子どもを育てるのは楽しいのよ」とメッセージしている。「女性も男性も働き方が変われば、子どもを産める環境が整う。仕事だけではない豊かな人生にもなる」「ライフワークバランス(働きと生活の調和)が大事」。人生のベテランの彼女たちは、子育てがしやすい環境は健康な社会と理解している。しかし、遅々として変革しない社会を嘆くのではなく、自分たちができる子育て協力をしよう。それが、自分の人生も豊かにしていると断言する。

のびのび親子ひろばで

楽しく世代間交流も

楽しく子育てができる仲間づくりの場「のびのび親子ひろば」が好評



サロン・ド・ポニータはランチを一緒に食べます

のびのび親子ひろば

Table with 3 columns: 名称(実施地域), 会場, 開催日. Lists various community events and their locations.

議会あいあいサービスセンターがよびかけて、区内9か所で地域の人たちが主体となり活動している。孤立しがちな専業主婦の子育てを地域の人たちがサポートし、かつ多世代が交流する。活動内容は、各グループで様々な工夫。『サロン・ド・ポニータ』はワンコイン(500円)でランチで交流する。料理上手な代表の内田嘉代子さんが仲間5人と季節の行事食を準備し、2歳までの子どもとその親を対象に開いている。食事しながら子育てや料理の話で盛り上がる。左表についての問合せは38856・0274(あいあいサービスセンター)。

平成19年度足立区予算案は子育て支援を柱に、中学生以下の子どもがいる家庭の買物優待や中学校3年生までの医療費助成をし、さらに環境整備拡充へ。少子化は、出生率にこだわるのではなく、子育てを応援する地域コミュニティの形成が重要。健康な社会は、出産への希望をもたらしと考える。